

エコアクション21

環境経営レポート

2022年度運用版
(運用期間:2022年5月～2023年4月)



2024年1月10日 発行



有限会社 陣工務店

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組	5
7. 環境経営目標の実績	7
8. 環境経営計画の取組結果と その評価、今後の取組内容	8
9. 今後の計画	9
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	11

1. 組織の概要

- 1) 事業所名 有限会社陣工務店
代表者氏名 代表取締役 井手 学
- 2) 所在地 本 社 〒814-0144 福岡市城南区梅林3丁目8番23号
倉庫 〒814-0155 福岡市城南区東油山6丁目89-4
- 3) 環境管理責任者
連絡担当者 立花洋子
連絡先 TEL092-865-0111 FAX092-865-0112
Eメールアドレス info@zin-k.com
- 4) 事業の内容 建築工事の設計及び施工
URL <https://www.zin-k.com>
- 5) 事業の規模 総売上額: 411百万円(2022年度)
- | 区分 | 単位 | 本社 | 倉庫 | 合計 |
|------|----------------|-----|----|-----|
| 従業員数 | 人 | 7 | 0 | 7 |
| 延床面積 | m ² | 127 | 85 | 212 |
- 6) 事業年度 5月～翌年4月

2. 認証・登録の対象範囲

- 1) 対象事業所 本社、倉庫
- 2) 対象活動 建築工事の設計及び施工
- 3) 対象外組織・活動なし(全組織・全活動及びその全従業員を対象とする)

3. 環境経営方針

環境理念

有限会社陣工務店は、自社が行う建築工事による様々な環境負荷(二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量等)が地球温暖化問題や地域環境、社会に与える影響を十分に認識し、こうした問題に対処して、健全な環境を次世代に引き継ぐことが責任と考えています。

そのためには、自社の事業活動の中に環境経営システムを構築し、適切に運用し、適宜見直しを行いながら、全社員が一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を適切に実施することで、環境経営の継続的改善に努めて参ります。

行動指針

1. 次の項目を重点項目として取り組みます。
 - (1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2) 廃棄物排出量の発生抑制とリサイクルを推進します。
 - (3) 節水活動を行い、水使用量を削減します。
 - (4) 環境に配慮した工事を実施します。
2. 環境に関わる法律・規制その他公的基準を遵守します。
3. 地域の環境保全活動には積極的に参加します。

制定日 2020年9月14日
改定日 2021年5月 1日

有限会社 陣工務店
代表取締役 井手 学

4. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、2021年度～2023年度までの中長期目標として、以下の4項目10目標をサイト区分(事務所、現場、全社)して設定しました。
- ・なお、化学物質は現場で協力会社が使用する場合があります、SDSによる適正使用・適正管理に努めることにしました。
- ・主要な環境負荷である二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量については、基準年(2019年度実績値)を基準に、毎年1%ずつ削減し、2023年度までに4%削減を目指します。
- ・事業活動を通して取り組む本業目標については、「環境に配慮した工事を行う」を掲げ、顧客に対して節水型トイレや省エネエアコン等の環境配慮型製品の提案を行い、受注促進に取り組みました。

環境目標	サイト区分	単位	基準年 2019年度	目標		
				2021年度 (2%削減)	2022年度 (3%削減)	2023年度 (4%削減)
				2019年5月～ 2020年4月	2021年5月～ 2022年4月	2022年5月～ 2023年4月
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	26,014	25,494	25,234	24,973
①電気使用量の削減	事務所	kWh	6,343	6,216	6,153	6,089
②ガソリン使用量の削減	全社	ℓ	10,198	9,994	9,892	9,790
	事務所	ℓ	3,343	3,276	3,243	3,209
	現場	ℓ	6,855	6,717	6,649	6,580
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	370	362	358	355
②産業廃棄物排出量のリサイクル率向上	現場	%	70	-	75	78
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	54	53	52	52
4. 環境に配慮した工事を行う	現場	件	6	8	10	12

備考 ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.370kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2019年度調整後)を使用した。
 ・()内の数値は、基準年(2019年度実績値)に対する削減率を示す。
 ・化学物質はSDSを取り寄せています。
 ・サイト区分の全社とは、事務所+現場を示す。

5. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組(活動項目)を設定して、責任者と担当者を決めて、全社員で取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①電気使用量の削減	会社	立花	1. 本社事務所の室温は冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調整する	立花	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
			2. 不用な照明を消灯する	立花	通年
			3. ブラインドの利用などにより、熱の出入りを調節する	立花	通年
			4. パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定する	立花	通年
②ガソリン使用量の削減	会社	立花	1. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	村上	通年
			2. 不用品を車両から降ろし整理整頓・清掃を行う	村上	通年
	現場	立花	1. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	西	通年
			2. 現場規模に合った重機を使用する	西	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①一般廃棄物排出量の削減	会社	立花	1. 古紙他の紙くずを安易に可燃ごみとして出さないよう注意喚起、分別を行いリサイクルを促進する	立花	通年
			2. 3S(整理・整頓・清掃)活動を実施する	立花	通年
②産業廃棄物のリサイクル率向上	現場	立花	1. 発生したごみは可能な限り、圧縮などを行い減容する	西	通年
			2. クレームによる再工事等が発生しないよう施工等における品質管理に努める	西	通年

3. 水使用量の削減

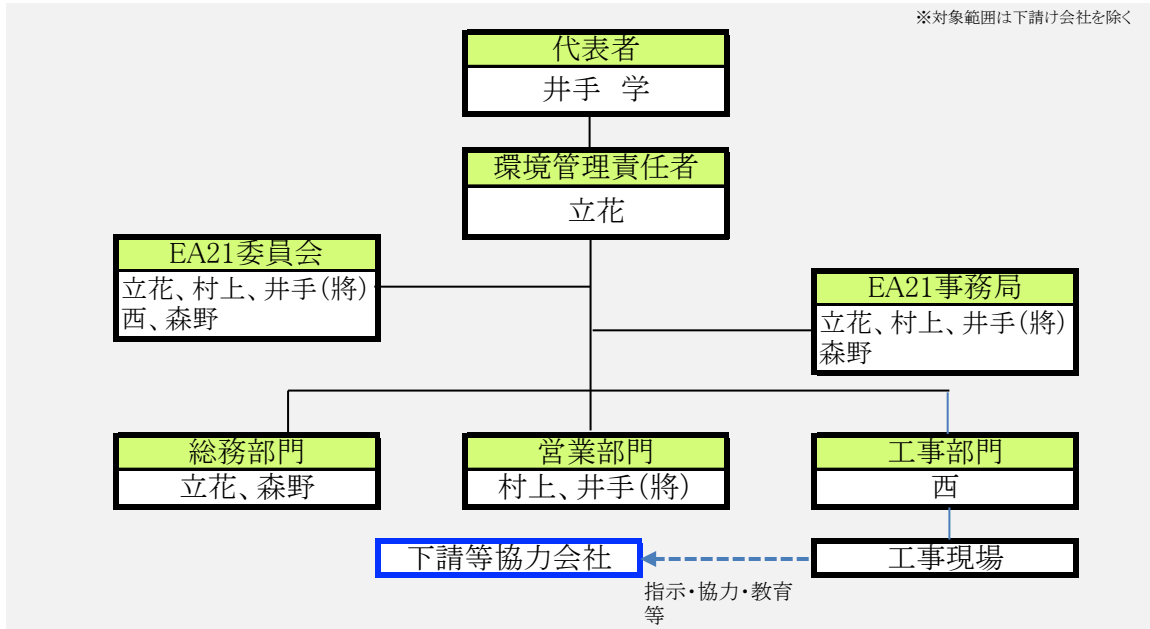
取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①水使用量の削減	会社	立花	1. 日常的に節水を行い、蛇口をシャワー型にすることで水量を減らす	立花	通年
			2. 洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行する	立花	通年

4. 環境に配慮した工事を行う

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①環境に配慮した工事を行う	会社	村上	1. 節水型トイレの受注促進。	村上	通年
			2. 省エネエアコンの受注促進。	村上	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組

1) エコアクション21の実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 毎年、環境経営目標、環境経営計画を作成する。3か月に1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認・評価する。 上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 3か月に1回開催し、環境経営目標及び環境経営計画の取組状況を確認する。 3か月毎に取組状況を評価し、必要に応じて問題点の是正処置を検討する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を順守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

2) 環境経営計画に基づき実施した取組

電気使用量 の削減取組

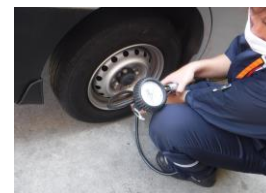
- ・冬場は室温 20 度を設定しました。
- ・不用な照明を消灯しました。
- ・ブラインドの利用などにより、熱の出入りを調節しました。
- ・パソコン、コピー機などの OA 機器は、省電力モードに設定しました。



空調管理温度(冬:20°C)

ガソリン使用量 の削減取組

- ・急発進・急加速を抑えました。
- ・タイヤの空気圧を定期的に確認しました。



タイヤ空気圧の定期点

一般廃棄物 排出量の削減・ リサイクルへの 取組み

- ・事務所のごみを資源ごみとしてリサイクル出来るよう、注意喚起、分別を行いました。



資源ごみの分別・リサイクル

産業廃棄物 リサイクル率 UPへの取組み

- ・建設現場で発生したごみは倉庫内の一時保管施設で分別・保管し、可能な限り、圧縮などを行い、減容して適正処理しました。



産業廃棄物の一時保管施設

水使用量 の削減

- ・日常的に節水を行い、蛇口をシャワー型にすることで水量を減らしました。



シャワー型蛇口の設置

7. 環境経営目標の実績

- 2022年度運用期間の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した4項目9目標のうち、3項目6目標達成しました。
- このうち、最大の環境負荷となっている二酸化炭素排出量は目標達成率116%で良好な結果となっていますが、事務所の電気とガソリン92%、95%で、僅かに目標を下回りました。次年度では基準年からの4%削減目標を達成出来るよう各項目の取り組みを徹底致します。
- 本業目標とした「環境に配慮した工事を行う」については、目標を達成しており、引き続き継続して参ります。

環境目標	サイト区分	単位	基準年 2019年度	2022年度運用期間 (2022年5月～2023年4月)		※1 目標 達成率	※2 目標 達成 状況
			2019年5月～ 2020年4月	目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	26,013	25,234	21,741	116%	○
①電気使用量の削減	事務所	kWh	6,343	6,153	6,692	92%	△
②ガソリン使用量の削減	全社	ℓ	10,198	9,892	8,301	119%	○
	事務所	ℓ	3,343	3,243	3,404	95%	△
	現場	ℓ	6,855	6,649	4,897	136%	◎
2. 廃棄物排出量の削減							
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	370	358	357	100%	○
②産業廃棄物のリサイクル率向上	現場	%	70	75	74	99%	△
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	54	52	41	127%	◎
4. 環境に配慮した工事を行う	現場	件	6	10	13	130%	◎

備考)

※1 目標達成率の計算 目標÷実績×100(削減目標の場合)、実績÷目標×100(増加目標の場合)

※2 評価区分◎:目標達成率≥120% ○:100%≤達成率<120% △:80%≤達成率<100% ×:達成率<80% -:判定不可

8. 環境経営計画の取組結果とその評価、今後の取組内容

・2022年度運用期間中の環境経営計画の実施状況は以下のとおりであり、設定した全ての項目でよく取組み実施できました。
 ・今後もこの取組を継続・発展させ、環境経営目標の全項目達成を目指していきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的な取組(活動項目)	取組実施状況	評価と今後の取組
①電気使用量の3%削減	会社	△	1. 本社事務所の室温は冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調整する	◎	<現状> ・取組は、全活動項目でよく実行できているが事務所については、あと少し目標数字に拘る必要がある。 <今後> ・目標未達となった項目は今後の取組を徹底し目標達成を目指す。
			2. 不用な照明を消灯する	◎	
			3. ブラインドの利用などにより、熱の出入りを調節する	◎	
			4. パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定する	◎	
②ガソリン使用量の3%削減	事務所	△	1. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	◎	
			2. 不用品を車両から降ろし整理整頓・清掃を行う	○	
	現場	◎	3. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	◎	
			4. 現場規模に合った重機を使用する	◎	

(備考)

達成状況区分 ◎: 目標達成率≥120% ○: 100%≤達成率<120% △: 80%≤達成率<100% ×: 達成率<80% -: 判定不可

実施状況区分 ◎: 良く実行されている(定着) ○: 実行されている △: ほぼ実行されている ×: 実行されていない -: 判定不可

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的な取組(活動項目)	取組実施状況	評価と今後の取組
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	○	1. 古紙他の紙くずを安易に可燃ごみとして出さないよう注意喚起、分別を行いリサイクルを促進	◎	<現状> ・取組は適切に実施できた。 <今後> ・今後も目標達成出来るように努める
			2. 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動を実施する	○	
②産業廃棄物のリサイクル率向上	現場	△	1. 発生したごみは可能な限り、圧縮などを行い減容する	○	
			2. クレームによる再工事等が発生しないよう施工等における品質管理に努める	○	

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的な取組(活動項目)	取組実施状況	評価と今後の取組
①水使用量の削減	事務所	◎	1. 日常的に節水を行い、蛇口をシャワー型にすることで水量を減らす	◎	<現状> ・取組は適切に実施でき目標も達成出来た。 <今後> ・今後も取組を継続する。
			2. 洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行する	◎	

4. 環境に配慮した工事を行う

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的な取組(活動項目)	取組実施状況	評価と今後の取組
①環境に配慮した工事を行う	現場	◎	1. 節水型トイレの受注促進。	○	<現状> ・取組は適切に実施でき目標も達成出来た。 <今後> ・今後も取組を継続する。
			2. 省エネエアコンの受注促進。	○	

9. 次年度の計画(環境経営目標・環境経営計画)

・本年度の目標達成状況と取組の実施状況を踏まえて、次年度の環境経営目標と環境経営計画を次のように設定しました。

(1) 環境経営目標

・今年度の環境経営目標は、ほとんどの項目で目標を達成でき良好な結果となっています。
 ・そこで、次年度の目標は、経営課題を解決し、チャンス獲得に繋がる本業目標として、「有資格者数の増加」と「公共工事評価点の向上」を追加して、計画のステップアップを図ることとしました。

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年 2019年度 実績値	目標		
				2021年度 (2%削減)	2022年度 (3%削減)	2023年度 (4%削減)
				2019年5月～ 2020年4月	2021年5月～ 2022年4月	2022年5月～ 2023年4月
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	26,014	25,494	25,234	24,973
①電気使用量の削減	事務所	kWh	6,343	6,216	6,153	6,089
②ガソリン使用量の削減	全社	ℓ	10,198	9,994	9,892	9,790
	事務所	ℓ+E11:E12	3,343	3,276	3,243	3,209
	現場	ℓ	6,855	6,717	6,649	6,580
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	370	362	358	355
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	現場	%	70	—	75	78
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	54	53	52	52
4. 環境に配慮した工事を行う	現場	件	6	8	10	12
5. 有資格者数の増加	全社	人	4	—	—	5
6. 公共工事評価点の向上	現場	点	72	—	—	73

備考 ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.370kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2019年度調整後)を使用した。
 ・()内の数値は、基準年(2019年度実績値)に対する削減率を示す。
 ・化学物質はSDSを取り寄せて適正管理を行います。
 ・サイト区分の全社とは、事務所+現場を示す。

(2)環境経営計画

・環境経営目標の達成状況と環境経営計画の実施状況との関係から、目標未達成となった「事務所の電気使用量とガソリン使用量」については、現在の取組を「重点取組項目」として位置づけ、取組を強化して目標達成を目指します。

・また、2023年度から新たに追加された2目標の活動項目と担当者を決めて、環境経営計画に盛り込みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

青字：重点取組項目を示す

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①電気使用量の削減	全社	立花	1. 本社事務所の室温は冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調整する	立花	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
			2. 不用な照明を消灯する	立花	通年
			3. ブラインドの利用などにより、熱の出入りを調節する	立花	通年
			4. パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定する	立花	通年
②ガソリン使用量の削減	全社	立花	1. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	村上	通年
			2. 不用品を車両から降ろし整理整頓・清掃を行う	村上	通年
			3. ハイブリッド車の搬入	立花	通年
	現場	立花	1. 急加、急減速、無駄なアイドリングは避ける	西	通年
			2. 現場規模に合った重機を使用する	西	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①一般廃棄物排出量の削減	全社	立花	1. 古紙他の紙くずを安易に可燃ごみとして出さないよう注意喚起、分別を行いリサイクルを促進する	立花	通年
			2. 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を実施する	立花	通年
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	現場	立花	1. 発生したごみは可能な限り、圧縮などを行い減容する	西	通年
			2. クレームによる再工事等が発生しないよう施工における品質管理に努める	西	通年

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①水使用量の削減	全社	立花	1. 日常的に節水を行い、蛇口をシャワー型にすることで水量を減らす	立花	通年
			2. 洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行する	立花	通年

4. 環境に配慮した工事を行う

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①環境に配慮した工事を行う	全社	村上	1. 節水型トイレの受注促進。	村上	通年
			2. 省エネエアコンの受注促進。	村上	通年

5. 有資格者数の増加

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①有資格者数の増加	全社	立花	1. 年間資格取得計画の策定	立花	通年
			2. 「人材開発支援奨励金」を活用し、資格取得のための支援を行う	立花	通年
			3. 有資格者の中途採用、また無資格者でも経験者であれば採用し、入社後に資格取得のための支援を行う	立花	通年

5. 公共工事評価点の向上

取組目標	サイト区分	責任者	具体的な取組(活動項目)	担当者	スケジュール
①公共工事評価点の向上	全社	西	1設計図書を精査し、資材、工法等でコスト削減の提案を行う	西	通年
		西	2ごみの分別、再生資源の利用等、資源に配慮した創意工夫や現場事務所廻りの清掃、花壇の設置等、環境に配慮した創意工夫を行う	西	通年

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動、製品及びサービスに適用される主な環境関連法規等は、以下のとおりです。
- ・2022年度運用期間中の事業活動に対して、2022年4月末に環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、全ての法律で遵守を確認し、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理 マニフェスト交付状況の定期報告	○
建設リサイクル法	対象建設工事の届出 工事規模の確認	-
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守	-
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守	-
フロン排出抑制法	簡易点検の実施 対象:7.5kW未満の業務用エアコン	○

備考) 評価区分 ○:遵守 ×:不遵守 -:該当なし

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

・今回の2022年度運用期間終了後に、代表者による取組状況の全体評価と、計画の見直しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

1)取組状況の全体評価

・環境への取組については、外部からの苦情の発生や法令違反の指摘もなく、全体として適切に実施されました。

・環境経営目標については、達成出来ている項目は引き続き継続して行っており、未達となった項目に関しては取組の周知・徹底を行い、データの集計と共に改善点の洗い出しを随時行っています。

特に二酸化炭素排出量について、事務所内の空調管理と営業車両のガソリンの削減取組を継続・強化するとともに、本業目標である「環境に配慮した工事を行う」にも力を入れ、環境経営を実行していきます。

2)見直しの結果

・今回は事務所に係る電気使用量、ガソリン使用量の削減を除いて概ね良好な結果となっていたため、当初の計画を継続することとします。



代表取締役
井手 学